

City Life NEWS

全国で注目される施策や課題は、地域で暮らす私たちにどう影響するのか?身近に起きた出来事やトレンドなど、幅広い分野のニュースを紹介していきます。ネットでもさまざまなニュースを紹介しています。



シティライフNEWS で検索

ふるさと納税の 法規制が6月からスタート

ふるさと納税制度は、任意の自治体に寄付をすると、寄付金額から2,000円を超える額を所得税と住民税から控除され、寄付者の税負担が軽くなるというもの。さらに返礼品が獲得できるとして人気を集めてきた。しかし、2019年度税制改正大綱で「ふるさと納税」の新たな規制ルールが設けられた。

制 度開始から約10年を迎えるふるさと納税制度。自分の生まれ育った自治体や応援したい自治体に寄付ができ、寄付金額は税金から控除・還付されるため、自己負担が軽減される。さらに魅力あふれる特産品などの返礼品が受けられるとあって、この制度の利用者は年々増加をみせている。

一方で加熱する返礼品競争やトラブルが問題になり、自治体間による「寄付争奪戦」に歯止めをかける目的で、今年6月に制度が改正となる。新たな規制ルールは「返礼品の額は寄付額の3割以下」、「返礼品は地場産品に限る」というもので、この基準を満たさない自治体に寄付をしても税金控除の対象とならない。

また、市内在住者への返礼品も送付できなくなる。さらに大都市圏の自治体ではふるさと納税で控除される住民税による税収減が問題となっている。

ふるさと納税のあり方を考えるきっかけに 神戸市では8つのテーマから 寄付内容が選べる

神戸市では、ふるさと納税での控除による昨年度の税収減が約30億円に及んでいる。その状況を改善しようと、市では昨年4月に「ふるさと納税庁内推進チーム」を立ち上げた。「神戸のふるさと納税」というサイトを設け、寄付金の使い道

とその実績が利用者に見える形にした。「生命」「地域密着」「自然・環境」「人材輩出」「安全・安心」「動物」「文化・スポーツ」「子ども・学校」の8つのテーマに分類され、約35種類の取り組みが掲載され、寄付金の用途を明確に記した。



今年4月には、新たに加わった取り組みがある。暴力団事務所撤去の際の訴訟費用を募るものだ。公益財団法人暴力団追放兵庫県民センターと協力・連携し、神戸市内における暴力団事務所使用差止請求に必要な費用に使用される。この寄付によって市民の力による暴力団排除活動を強化し、暴力団事務所がない安全で安心なまち神戸を目指すという。

居住する自治体への寄付は、返礼品こそ受け取れない(神戸市では5月8日から)が、より身近な取り組みに貢献できる良さがある。例えば、神戸マラソンに参加しているなら、「神戸マラソン開催を応援」に、登山を趣味としているなら、六甲山の森づくりに関する寄付という具合だ。また市外からの寄付の返礼品に関しても特産品だけでなく、「神戸マラソン出走権」や「有馬温泉宿泊券」といった、来神を促し、町の活性化につながるものを提示している。



後見保育の実施がある。市立のこども園内での病児・病後見保育の実施は県内でも先駆的だ。また芦屋市のおいしい学校給食といえば、市が出版したレシピ本が増刷されるほどの人気だったが、芦屋出身の白羽弥仁監督によって映画化されることになり(2020年秋に劇場公開予定)、支援を募っている。その他芦屋市が全国に先駆けて進めている「無電柱化」など、約20種の取り組みがある。



支援できる取り組みや実績を詳しく紹介しているパンフレット。神戸市役所や各区役所で手にすることができます。



「神戸のふるさと納税～使い道と実績～」
https://furusato-kobe.city.kobe.lg.jp/use_and_record.html

【神戸市の取り組み(寄付例)の一例】



がん等の難病の克服にむけた治療薬の開発、新たな医療機器の開発など、「神戸医療産業都市」の取り組みを支援。



記念撮影スポットとして人気の「BE KOBE」モニュメントの保全等、都心ウォーターフロント緑地の魅力向上を支援。



(公社)神戸市獣医師会が中心となって行うミルクボランティアや「人と猫との共生推進協議会」が行う野良猫の繁殖制限事業に活用。



災害に備えて、民間企業、NPO、大学などと連携して行う、地域や学校での防災啓発や、市民備蓄の推進事業に活用。



間伐材の有効活用など、六甲山の「これからの100年を目指した森づくり」を実現するための様々な取り組みに活用。



地域住民の生活環境に悪影響を及ぼしている空家・空地対策に活用。

西宮市は10事業から選べる

西 宮市では寄付金の使い道として、現在10事業から選択することができる。その一つが「図書館の資料収集や設備の整備など」にかかる事業。寄付者からは、「いつも子どもの読み聞かせでお世話になっています。様々なジャンルの大量の絵本を毎日読み続けたおかげで長時間集中していられるようになりました」といった声も寄せられ



平成29年度に寄付金の一部を活用して、大型絵本など児童書の充実を図った。

ている。また鉄道駅を有しない山口地域から、南部市域へ直接連絡する唯一の交通機関として活躍する「さくらやまなみバスを継続的に運行するための事業」というものもある。同バスは、通勤通学といった生活上の交通手段としてだけでなく、山口町や西宮南部の観光にも利用できる。さくらやまなみバス利用促進協議会では観光用の山口町「ぶらあるきマップ」や「西宮南部探訪ツアー」といったツールも作成し、魅力を発信している。

西宮市図書館振興基金に寄せられた寄付金の件数、金額は下記の通り。

寄付金総額(平成30年3月末時点)

年度	件数	金額
平成29年度	32件	1,905,000円
平成28年度	55件	1,804,000円
平成27年度	10件	200,500円
平成26年度	1件	10,000円
平成25年度	1件	10,000円

「あしやふるさと寄附」では 子育て支援や無電柱化に活用

芦 屋市でも、取り組みに対して広く理解を促し、応援してもらおうと、昨年11月より、内容、趣旨、設定した目標額に対する進捗状況、達成状況などを随時、情報発信している。広報誌の臨時号として発行したほか、市のwebサイトでも掲載。取り組み内容の一例としては、2021年に開園予定の「(仮称)市立西蔵認定こども園」(芦屋市西蔵町)への大型遊具の設置や、子どもの急な発熱でも仕事を休まず預けることができる「市立精道認定こども園」(2021年芦屋市精道町に移転予定)での病児・病